

## 1 研究主題

豊かな人間性を育む特別活動の創意工夫

## 2 はじめに

研究主題である豊かな人間性を育むために、各校の現状を踏まえて、ねらいに沿う具体的な取り組みや、教育現場ニーズの多様化に伴う時間短縮の中で、最大限の効果を発揮する取り組みについて、協議をもとに追求している。

## 3 研究経過

- (1) 各校の特別活動の取り組みについて、毎月の研究会でディスカッションテーマを設け、小グループで情報交換し、全体で内容を共有し、協議した。
- (2) ディスカッションテーマについては、実施計画立案前に設定し、今年度の各校の実践に活かせるような計画で活動を進めた。
- (3) 来年度を見据え、新学習指導要領の改訂ポイントを共有した。

## 4 研究の概要

月ごとの取り組み

### ア 5月 <テーマ>運動会と体育大会について

中学校では、体育大会と育祭の違い、応援旗などについて確認した。小学校では、準備片付け等の割り振り、応援の在り方などを確認した。小中共に、時間短縮に伴う競技の見直しと、練習時間の確保、雨天時の延期対応などが課題となっていることが分かった。

### イ 6月 <テーマ>学校オリジナル行事、文化祭について

小学校は、縦割り活動を取り入れた行事が、各校の実情に合わせて展開されていることを確認した。中学校では、地域とふれ合ったり、地域に還元したりする活動が、各校の実情に合わせて展開されていることを確認した。

### ウ 7月 <テーマ>児童会・生徒会（組織など）について

各校、児童会・生徒会組織はそれぞれ違うが、組織の在り方や意義は同じであることを確認した。小学校、中学校共に、どのような児童生徒を育成していくのか、そのための教師の関与の度合いと指導の仕方などについて共有・議論した。

#### エ 9月 <テーマ>学級活動について

中学校では学年で統一して行事の練習時間を設定することが多い。逆に小学校では学年で時間を合わせずに、学級それぞれの進め方で時間を使っている。そのため、教育課程をもとに年間計画を立て、実行していく必要性が共有された。

#### オ 10月 <テーマ>送る会・感謝の会について

在校生（出し物）と卒業生（お返し）が互いに発表する学校が多かった。小中共に発表内容はなるべく重ならないように工夫していた。会自体をなくした中学校もあった。年度末の忙しい時期での時間の確保、教員がどこまで関わってつくりあげていくのか、全員が参加して達成感が味わえる方法が課題となった。

#### カ 11月 <テーマ>縦割り活動について

小学校では積極的に縦割り活動が行われており、休み時間や給食・清掃・行事等の様々な場面で活用されていた。ただし、高学年の負担が増加するので、解消する方法も共有された。中学校では、生徒指導の関係で小学校ほどではないが、行事を中心に縦割り活動に取り組んでいた。以前は地域で子ども同士の縦のつながりがあったが、個が主流となり、学校で縦割り活動を取り入れるようになった経緯や発達段階に応じた意味のある活動を目指したいということが確認された。

#### キ 12月 <テーマ>新学習指導要領改訂について

小中の学習指導要領の改訂ポイントをWeb動画や資料をもとに、ディスカッションした。改訂ポイントの中で、勤務校の特別活動において大切にすべき点は何か、特別活動の目標である「合意形成と意思決定」が必要な場面はどこかの2点を中心に議論し、共有した。特別活動は、他教科を支える基盤であり、よりよい人間関係を形成し、自己実現や社会参画につながる大切な活動であることを改めて認識できた。

### 5 今後の課題

教育現場へのニーズが多様化していく中、2020年には小学校、2021年には中学校の学習指導要領が改訂され、全面実施となる。特別活動は、他教科を支える基盤であり、よりよい人間関係を形成し、自己実現や社会参画につながる大切な活動である。だからこそ、限られた時間の中で、我々教員が、目指すべき児童・生徒像を明確に持ち、それぞれの活動の目的をはっきりさせ、これからも特別活動を研究・実践していくことが大切であると感じている。